2022年12月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回1月のてがたんは1月14日(土)で、テーマは「冬鳥を楽しむ」です。ぜひご参加ください。1月5日(木)から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は1月8日（日）です。

12月の観察コースと内容

●コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場→旧水生植物園

●観察日時と天気：2022年12月10日 (土) 10:00～11:00　晴

●参加人数：20名（大人16名、中学生以下4名）

●市民スタッフ：7名（石原直子、伊東茂子、北村章子、木村　稔、小泉伸夫、弘實さと子、湯瀬一栄）

●博物館友の会：1名（古澤紀元）　●鳥博職員：1名（**小田谷嘉弥**）

観察した生き物の記録

「*」は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】
キジ科：キジ／カモ科：カルガモ、マガモ、コガモ、スズガモ／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：オオバン／カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ／ミサゴ科：ミサゴ／タカ科：トビ／カワセミ科：カワセミ*／モズ科：モズ／カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス／エナガ科：エナガ*／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ツグミ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ*／アトリ科：カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン　家禽や外来種：コブハクチョウ（カモ科）、ドバト（ハト科）

【魚類】
モツゴ

【昆虫】
チョウ目：モンシロチョウ、キタキチョウ、アカタテハ、キタテハ／トンボ目：アキアカネ／カマキリ目：オオカマキリ（卵のう）／バッタ目：ヒシバッタ／カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、ビワコカタカイガラモドキ／ハエ目：アブの仲間、ユスリカの仲間

【クモ】
ジョロウグモ

【花・実】
草の花　キク科：セイヨウタンポポ、コセンダングサ、ハキダメギク、ノゲシ、オニノゲシ、オオジシバリ、ハルジオン、ヒメジョオン、コスモス／シソ科：ホトケノザ／オオバコ科：オオイヌノフグリ／アブラナ科：タネツケバナ、コイヌガラシ／キツネノマゴ科：キツネノマゴ／タデ科：イヌタデ／ハエドクソウ科：トキワハゼ／マメ科：シロツメクサ／ショウガ科：ハナミョウガ
木の花　ツバキ科：サザンカの仲間

草の実　ウリ科：カラスウリ／アカネ科：ヘクソカズラ／イネ科：ヨシ
木の実　アサ科：エノキ、ムクノキ／モクセイ科：トウネズミモチ、イボタノキ／クスノキ科：シロダモ／バラ科：ノイバラ、トキワサンザシ

12月の観察アルバム

今回のテーマは「ホオジロたちの暮らしかた」でした。てがたんコースで冬に見られる4種のホオジロ類のうち、3種の姿と声を確認することができました。そのほか、この時期らしい冬鳥をはじめ、冬の生き物の生活の様子を観察しました。

今月の案内人
小田谷嘉弥

❶ヨシの穂を食べていたホオジロ

❷たくさんの種をつけたヨシの穂

❸排水口の近くに集まっていたモツゴ

❹冬のオオジュリンの主な餌になるビワコカタカイガラモドキ

❺地上の獲物を狙っていたモズの雄

❻水辺を歩いて餌を探していたアオサギ

❼見やすいところに出てきたキジの雌雄

❽まだ網を張っていたジョロウグモ

今月の鳥　ホオジロ（スズメ目ホオジロ科）

ホオジロは全国的に広く分布する小鳥で、亜高山から海岸沿いまで、幅広い環境の草地を好みます。手賀沼周辺でも一年中見られ、沼沿いの草地や谷津田の休耕田などで見られます。3－9月の繁殖期には「一筆啓上仕り候」などと聞きなされる声で目立つ場所で鳴きます。1年中発する地鳴きは「チチッ、チチチッ」という2回または3回連続した声です。同様の声は、他のホオジロ類も出しますが、アオジやカシラダカなどの他の種では「チッ」と1声であることが多いので、姿が見えなくても種を識別することができます。冬の主な食物は植物の種で、ヨシやセイタカアワダチソウの穂から器用に種だけを取り出して食べます。冬には数羽～10羽程度の群れで行動するので、地鳴きを頼りに姿を探してみましょう。

繁殖期のホオジロの雄